

# 大東ふれんず帳

(13)

## 宝さがしのエンゼルたち

### ある地区の運動会から

もうふた昔も前になるだろうか。単線野崎駅南西は一望の稲の穂波をさわやかな風が吹き渡る田園地帯であった。

新興住宅地ができてどんどんと人口が増加した。小学校が新設、中学校も建った。この地区に公民館ができたころ、小学校の校庭をお借りして『運動会』をしたらという話になった。

自治会の役員さんを中心に各種団体の世話人さんたちが幾晩となく集まっては『初運動会』の準備をした。

朝早くから、リズムカールなマーチが聞こえてくる。お弁当や敷物を持って、皆それなりに軽やかなスポー

ツウエアで集まってくる。絶好の快晴。ぐんと伸ばした体操のフォームが生き生きと輝いている。テント内はお年寄りの方々と、ご来賓のお席である。運動会ならではの躍動的なレコードが鳴り響き、ピストルのご音が始まりを告げると、もう次々と競技が繰り広げられている。刻々と入場門への案内がアナウンスされている中、コミックなマーチの童謡がかかかって、「次は幼児の『宝さがし』です」。若いパパに手をひかれた子、だっこの子もある。年長さん

も一緒に、ピストルの合図で一斉に走り出す。あつちこつち迷走したり、宝の袋を取り合いっこしたり、我が地区のエンゼルたちは宝さがしに夢中であつた。小さなオモチャやお菓子袋を抱えて、拍手と笑いの中を退場。本当にかわいい光景である。アベック競走や、奥さんたちのお尻で思いっきり風船を割るユーモラスな珍プレーも続出する。

学年別、ブロック別等速さに挑戦する誓星たちに、場内総立ちの応援である。『マイム』ほか、子供たちも一緒に運動場いっぱい輪で踊ったフォークダンスや盆踊りの何と楽しかったこと。

以来、自治会の役員さん初め地区の人々の協力で、『レクリエーション大運動会』はもう十一回も続いて



秋空の下、地区運動会で力走するお年寄り

地区のコミュニケーションの輪が大きく広がっている。日常の生活感覚からはなれて、健康的な緊張感の輝き等、原点を共有する運動会は、底につながる潜在的な連帯志向を高める楽しい機会でもある。

しかし一方、今日的な社会現象として、連帯における価値観の多様化、年ごと

文・川西恵美子

に高齢化が進む現状、女性の社会進出など……が地区諸活動の在り方に新しい課題を生んでいる。運動会等を通じて、永年培われてきたこの地区のコミュニケーションの輪をみんなで大切にしていきたいと思う。

今日も、エンゼルたちの元気な声が聞こえてくる。